NPO法人

JSRC

2010年11月20日

第 8号

Jomon Shiba

特定非営利活動法人

縄文柴犬研究センター

NPO法人 JSRC Jomon Shiba 第 8号

もくじ

リュウとの1年10カ月　☆群馬県・桒原明美 …… 2

シバの散歩道(8)　☆JSRC 理事・根深　誠（文筆家・釣り師・元登山家） …… 3

お便りコーナー　☆北海道･橘さん　☆福井県･仲市さん　☆岩手県･加藤さん …… 6
宮城にて二人の交流　☆宮城県･佐藤初男 …… 7
第2回 群馬ミニ交流会　☆群馬県･荻野千恵子 …… 8

日本犬研究の再検討　☆北群馬渋川郷土館館長･小山　宏(文学博士) …… 10

思い出の犬たち-8-　☆柴犬研究所･五味 …… 13

根深 誠･藤井忠志対談講演会「白神山地が世界遺産に指定されるまで」-1
☆本州産クマゲラ研究会編 …… 14

事務所報告　☆会費　☆仔犬登録　☆寄贈　☆根深　誠の44冊目の新刊紹介 …… 18
☆諸料金･血統登録について …… 13
JSRC**理事会議事録** …… 19
NPO**法人･縄文柴犬研究センターの事業(研究出版)への協力のお願い** …… 20
縄文柴犬の基礎資料のために-無くて七クセ(仮称)情報をお寄せください …… 20

JoeとMon **第7話 やんちゃの功罪**(4コマまんが)　☆作･ぽよよ～んオヤジ、文･風(フウ) …… 裏表紙･内側

広告掲載:**サン獣医科** …… 5
日の出動物病院 …… 17

次号の原稿締め切り日は、2010年12月末日です。

･会費や寄附などをお寄せいただいた方の氏名･県名を掲載させていただきますが、匿名を希望される場合は、お知らせください。

特定非営利活動法人　縄文柴犬研究センター

会事務所　**郵便振替口座**　02280-2-106951
〒　014-0073　**秋田県大仙市内小友字堂ノ前119番地5**　TEL　0187-68-2976
http://www.jomon-shiba.com/　*encounter_shiba@jomon-shiba.sakura.ne.jp*

リュウとの1年10カ月

群馬県　　柔 原　明 美

隣家で空き巣が入り不安を感じていた時、偶然にも友人から「縄文柴犬の仔犬が生まれた、番犬にお薦め」と連絡があり、悩んでいる私に「お試し飼育をしてみたら」との提案で、年末年始の休暇を使ってこれにチャレンジすることにしました。それまで犬を飼ったことのない私は縄文柴犬の存在など知るはずもなく、友人宅の縄文柴犬を痩せた柴犬と思い込んでいたほどでした。

仔犬を引き取りに行ったのは12月28日。まだ生後37日で早すぎるのではと心配しましたが、友人の「大丈夫」に後押しされ、書店で購入した「柴犬の飼い方」を片手にリュウとの生活が始まりました。まるで真っ白な動くぬいぐるみに娘たちも大わらわ、加えて先住の２歳の雌猫は三日間まったく餌を食べず、ストレス死？を心配しましたが、急変した環境に動物の適応能力で何とか乗り切り、徐々にリュウとの距離を縮めて行きました。

9日間の休暇が終わり娘も冬休みが終わると家の中は急にひっそりし、ウィークデーは朝7時半から夜7時まで猫とリュウだけという生活が始まったのです。仕事に行っても頭の中はリュウのことばかり、終業後一目散に帰宅し着替えもソコソコに餌をやり、新年会やら○○会は欠席し、仕事を休んで獣医に連れて行ったり…と、振り返ってみると、まさしく子育て中の自分と全く同じではないかと笑ってしまいました。

こんな環境でもリュウは順調に育って行きましたが、犬種由来の特性、飼育環境、性格などが重複しているものと思いますが、噛みつき、飛びつき、うなり、吠える等険しい行動が悩みの種となり、ある日ペットショップの犬のゲージの前でジーッと仔犬を見ていると、店員さんが「悩みごとがあるようですが大丈夫ですか？」と声をかけてくれました。後で聞いたところ自殺でもしそうな顔をしていたそうです。これこそ人間でいえば「育児ノイローゼ」だったのです。今考えるとこの頃はまだ縄文柴犬の特性を理解できていなかったにも関わらず、気持ばかり焦っていて、ＪＳＲＣの皆さんや警察犬関係者、ベテラン飼育者等のアドバイスを色々聞きまくり、支離滅裂状態になっていたのです。

成長と共に悩みの種は少しずつ解消もしましたが、未だに家の前を通る犬に吠えまくる、散歩途中すれ違う犬にかかって行く等、他の犬との関わり方で悩んでいます（猫には興奮しないのに）。しかしこれはリュウが親犬から社会性を学習していない生後37日で連れてきてしまったこと、幼犬期犬同士の触れ合いが少なかったことも原因の一つと思うとリュウに今更ながら「ごめんね」という気持ちです。今は、この犬たちが生まれながらにして備わっているに違いない力を信じて、皆さんに助けていただきながら、改善を図りたいと思っているところです。

リュウ：新田の白竜－上州新田荘・2008.11.21
(鉄熊×菊の紅子)

こうしてリュウとの生活を振り返ってみると、子供達が家から離れ、独り暮らしの私を支えてくれたのはリュウの存在でした。リュウが軒下にいてくれることで夜も全く不安を感じることなく、寂しくもありません。毎朝晩の散歩やジョギングで腰痛も改善し、たまの遠出で色々な新体験ができ、充実した毎日を送ることができるのもリュウのお陰と言ってもいい程です。

無駄吠えでの近所迷惑が頭痛の種ですが、飼い主が欠陥だらけなのですから飼い犬だって欠陥の一つや二つあっても当然。ご近所には時々菓子折りを持って行くことにします。(笑)

以上述べた内容は、まるで「新米ママの子育て奮闘記」のようだと、ベテラン飼い主さんからは一笑に付されそうですが、私にしてみれば泣きあり笑いありしながらも飼い主として一生懸命リュウと接した１年10カ月でした。リュウも、もうすぐ満２歳を迎え、少し落ち着きが見られるようになり、頼もしい番犬をしてくれています。

リュウよ、これからもよろしくね。

(2010.10.17記)

シバの散歩道（8）

根 深　誠（文筆家・釣り師・元登山家）

今年四月、弘前市長選で新市長が選出された。前市長の公約は「情報公開」「市民一人一人の意見を大切にしたい」というものだった。これに対し、市政刷新を訴える新市長の公約は「対話と創造」である。

私が問題にしている「犬猫看板」は、前市長以前の代に設置されている。設置日は平成元年5月31日。これは市役所とのやりとりで私が問題にした十一項目に対する市役所の回答に記されている(『Jomon Shiba』第4号、第5号参照)

「犬猫看板」の設置から今年で21年になる。市政刷新、「対話と創造」を標榜する新市長になってから、その「犬猫看板」にも変化がみられた。なんと、増設されたのだ。いったい、こうした行為のどこが「対話と創造」なのだろう。唖然とするしかない。しかし、これが私の住む社会環境の現実でもある。

口直しに、しばらくぶりで散歩日記を書き記す。

※

護岸された土淵川の対岸にニセアカシヤが生えている場所がある。リンゴ畑のへりの斜面に自然に生えている。去年、知ったのだが、そのニセアカシヤの木立にカラスが巣をつくっていた。サクラが散り、リンゴの花が咲く、ちょうどいまごろの季節、抱卵する姿が見えたので、ヒナの巣立ちを愉しみにしていたのだが、いつごろからか、営巣を放棄して巣だけが残された。親鳥の姿も見えなくなった。おそらく、と私は考えた。営巣木から十㍍ほど離れた、同じ木立に生えているニセアカシヤの伐採が原因だろう。

カラスはゴミを食い荒す、糞は垂れ落とすで害鳥として問題にされている。弘前公園の歩道はおびただしい糞で白っぽくなっている。これには行政も対策に苦慮しているようだ。

カラスはともかく、私は無神経に草木を切り倒すことに苛立ちをおぼえることがある。落ち葉がじゃまになるから、草木があると虫が湧くから、倒れると危険だから。さまざまな理由はあるだろう。それらを一律に扱うことはできない。しかし、この地球上に存在し、私たちの環境に組するほかの生き物にも慈悲や慈愛のまなざしをむけてほしいと思う。自然を抑圧する心は、ほかの人間に対しても抑圧する態度と同系のものだろう。

と、私がこんなことを他人に話したとしよう。すぐさま反駁の言葉が返ってくることは避けられない。相手によっては、短兵急に津軽弁でこう言い出す人もいるはずだ。「ナンダモンダ、人ど自然どどづが大事なんだ。このツボケこの」「んだ、んだ、そんだ、そんだ。なんぼハンカクセ人だ。そうすたのもわがねんだが」

人か自然か、こうした二者択一の対立的な考え方は、

①散歩道にひろがるリンゴ畑では、季節になると白い花が爛漫と咲く。

②スギの梢で、ピーピー啼くノスリの巣立ち雛。

どのような教育的背景で、人々の判断基準を占めるようになったのだろうか。右か左か、はい、多数決で決めましょう、挙手してください。私も、このようにして物事を決める方法を教育されたことがある。多勢と無勢に色分けされ、この場合、多いことが解決策と見なされる。これは問題解決のひとつの方法ではあっても、必ずしも適切であるとはかぎらない。真に解決されねばならない本質がはぐらかされてしまうことが往々にしてある。

徒党を組んでノスリに襲いかかるカラスとの光景を眺めていて、比喩的にそんなことを思う。人間社会と共通するものがあるような気がしてならないのである。

以前、世話になった日本国大使に招かれて公邸で酌み交わしたとき大使が口にした言葉を思い出す。「酒の味のわからない人にいい酒を飲ませることほどくだらないことはないからね」けだし名言だ。
酒にかぎらず人生にはさまざまな筆舌に尽くしがたい妙味がある。五十路を過ぎたことからうすうす気づかされてきた。還暦を迎えていよいよ人生の円頓境に入ったと言うべきか。周囲の景観が映し出す四季おりおりの変化を観察しながら、飼犬のシバと散歩を愉しめるようにもなったのである。

ところでカラスの巣についてだが、今年になって、昨年放棄された巣にカラスの姿を再び見かけるようになった。散歩道から三面護岸の土淵川を挟んで見上げると数㍍の位置の枝の分かれたところにつくられた巣である。つがいが交替で出たり入ったりしていることからして抱卵しているようだ。これで愉しみがひとつ増えたというわけだ。

※

夕方5時ごろ、かすみのかかった空の全体が、夕日の光輝に照り映えて赤く染まっていた。真夏の夕方にはときおり、こうした夕焼け空を見ることがある。しかし季節はまだサクラが散りはじめたばかりで、満開のリンゴ畑では農家の人たちが摘花作業に追われる初夏である。もしかしたら、こうした現象は異常気象による温暖化と無関係ではないのかもしれない、と素人考えが頭をもたげる。

一方で、それとはべつの感慨も湧き起こる。あちこちの旅の空で眺めた、嘆息にも似たような抒情的な空の色だ。

夕焼けは旅愁を感じさせる。眺めていると心が落ち着き、さまざまな旅の空で過ごした日々がよみがえる。チベットの荒野であり、ヒマラヤの奥地であり、亜熱帯の平原、中央アジアの砂漠、熱帯の海辺、極北の山、都会の雑踏など、過ぎ去った旅先での情景がなんの脈絡もなく思い浮かぶことがある。どうってことのない個人的な体験だが、その集積が私の人生でもある。

散歩中、ベンチに座って夕焼け空と対面し、ぼんやり開放感に浸っていると、私の隣でお座りしているシバが不意に猛然と飛び出すことがある。飼犬をつれた散歩者が通りかかっても、私は気づかずにいることがあるのだ。そんなこともあろうかと思って、相手の飼犬に飛びつかないように、私はシバの引き綱を手に巻きつけて短くしているのだが、相手の飼主にしてみれば、突然、脇から飛び出そうとするシバにびっくりするらしい。

こうしたとき相手の飼主は不愉快きわまりない表情を露骨に顔に出す。津輕の方言で、これを「ツラツギ」するという。私は内心、なにもそんなに怒ったような顔をすることでもあるまい、と思いながら、あっ、すみません、びっくりさせて、と一応詫びてから、おう、よしよし、シバ、いいの、いいのとシバをなだめる。

あるとき相手の飼主、ここではオヤジとでも言っておこう。そのオヤジは柴犬を二匹つれていた。そして

③用水路で餌をついばむ
ツガイのオシドリ。

ツラツギしながら「エガエガ」として歩いて行ったのだ。エガエガというのは、これも津軽の方言だ。得意然とした態度をさす。ツラツギしながらエガエガとした態度は、いうなれば睥睨しながら歩いて行ったという意味にちかい。

私は後味の悪い思いをするのだが、だからと言って、まさか、文句をつけるわけにもいかない。「シバ、散歩がだいなしになってしまった。帰るべ」シバにそう話しかけながら立ち上がる。

帰り道、私は気分を害したことから、どうも、いかんな、この年になって、と反省する。なぜ、心の平静を保つことができなかったのか。未熟な証拠なのだろうか。それにしても、あのオヤジ、顔つきがよくなかったな。貧相である。世間には、ああいうてらいがのさばっている。人相がよくないのは男だけにかぎらない。

前を歩く中年女性が大声で話しているので、否応なしに聞こえてくる。

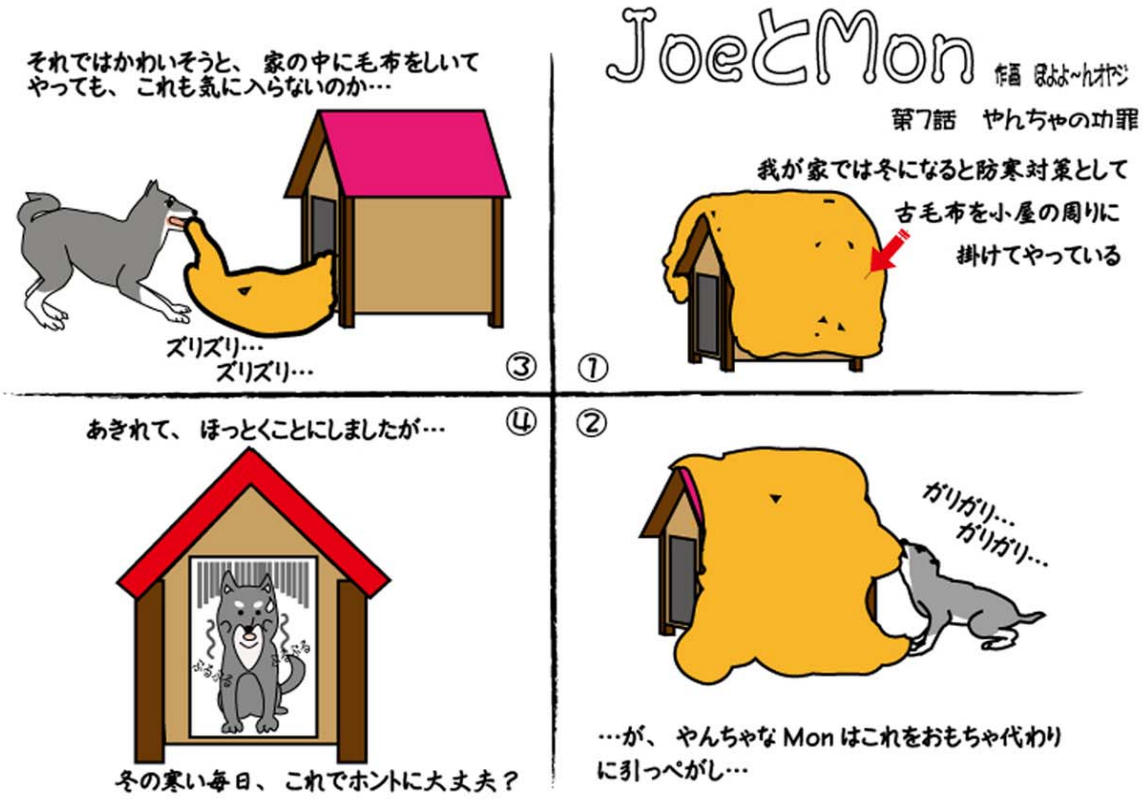
「ジェンコ、ねんだば、会社の旅行さ、参加させねばイイッキャー。なすて、ジェンコ、ねぇのに行きてってしゃべるんだすて。なっ、なっ、うんだべ」

「うんだ、うんだ、うんだッキャー」

いたわりの心を忘れた下品な会話のように思われる。こういう品格の卑しい人たちが、じつのところこの地方には少なくない。だからといって、この人たちが責められる謂れもない。この人たちを咎めたりすることは、自らの品格を堕してしまうことであり、それよりむしろその社会背景に目をむけるべきだろう。

今年で21年の歳月をへて、その不当性を市議会においてさえ指摘されていながら改善しようともしない体質は、たんに弘前市役所にかぎらず、この地域社会全体に猖獗する悪弊に思われてならない。周知を統合することもなければ、トップダウン（上意下達）に対してボトムアップ（下意上達）する仕組みもない。かりにあったとしても実効が伴わない。

(2010.9.27)



JoeとMon　第7話　「やんちゃの功罪」

作画:ぽよよ～んオヤジ・文:風(フウ)

おとーさん、そんなにワタシのこと心配してくれなくても大丈夫！だって、ワタシ、縄文柴犬なのよ。縄文時代のすみかのことを想像してちょうだい。まん中の焚き火を囲んで家族みんなが寝てるってわけじゃない？もちろん、縄文イヌもそばで。飼い主に寄り添っていたかもね、土間の土はほんのり温かくていい。毛布なんかいらないのよ、きっと。

だから、ワタシの小屋にもせめて床暖房を工夫してくれれば、毛布なんていうオモチャなんかいらないの。もっとも、オモチャとしたら、無いよりあったほうが、ひまつぶしにはなりますけれど・・・えへへへー！

さて、床暖房となると工事が大変！なんて心配してくれなくても簡単よ。ペット用品のお店ではそろそろ「ペットヒーター」なんていうものを売ってるかな？それの丈夫そうなのを小屋に入れていただければサイコー！これがあれば、ワタシが赤ちゃんを産んだ時にも役に立ちま～す！赤ちゃんだって、お母さんと一緒にこの上で寝れば、冬に生まれたって無事に育つそうです。

気をつけることは、電気のコードをワタシがかじれないように工夫すること。いたずらのワタシが言うのだから確かよ、えへへ～っ。どうかよろしく。

(2010.10.12)

Monより